

The 1st Clinical Meeting of Prosthodontic society

“Prostho ‘14”

December 6 - 7, 2014

Tokyo Medical and Dental University

鶴岡 淳

2014年12月6日(土)、7日(日)東京医科歯科大学 M&Dタワー2F 鈴木章夫記念講堂にて第1回補綴歯科臨床研鑽会 プロソ‘14 が開催されました。

鶴見大学からは当講座の佐藤洋平先生、歯科技工研修科の伊原啓祐先生がシンポジストとして登壇されました。今回が初めての試みとなる“補綴歯科臨床研鑽会”はその名の通り補綴歯科臨床に特化した学会となっており、多くの臨床症例、術式について学べる場となっていました。



第1回目のテーマは

- 審美歯科臨床のカットングエッジ - となっており、審美補綴臨床の分野をリードする臨床歯科医と歯科技工士が一同に介し、審美補綴臨床に際しての歯周組織のマネージメントやデジタル技術の応用などについてのシンポジウムが行われました。



12月6日 土	program	12月7日 日	program
シンポジウム1 9:30~12:40	審美補綴のための補綴前処置 (アタッチメントレベル、歯頸線)	シンポジウム3 9:00~11:30	クラウンカントア、フィニッシュラインの設定と プラットフォームの処理
■ 佐藤 洋平(鶴見大学)	■ 脇 智典(東京支部)	■ 六人部 慶彦(関西支部)	■ 松永 興昌(九州支部)
■ 石田 雄一(徳島大学)	■ 宮前 守寛(関西支部)	■ 伊原 啓祐(鶴見大学)	
シンポジウム2 14:10~17:20	欠損部歯槽堤の保存、再建 (総合組織移植を含む)	シンポジウム4 13:00~16:50	CAD/CAMを用いた審美材料と技工技術の 進歩
■ 木林 博之(関西支部)	■ 山崎 章弘(中国四国支部)	■ 土屋嘉都彦(九州支部)	■ 丸尾勝一郎(神奈川歯科大学)
■ 正木 千尋(九州歯科大学)	■ 松井 徳雄(貴和会新大阪診療所)	■ 西村 好美(デンタルクリエーションアート)	■ 田中 晋平(昭和大学)
		■ 大谷 恭史(University of Washington)	

Day 1

The 1st Clinical Meeting of Prosthodontic society “Prostho ‘14” December 6 - 7, 2014

6日の午前はシンポジウム1「審美補綴のための補綴前処置—アタッチメントレベルの管理、歯頸線の調和—」

石田雄一先生が「審美歯科治療の現状と治療のエンドポイント」について講演され、続いて当講座の佐藤洋平先生が「審美性を獲得するための補綴前処置」との題で、審美補綴を行う前の前処置について、審美補綴治療における問題点である、Position, Volume, Discolorationに対しての前処置や対応法について具体的な症例を数多く用いて講演されました。脇 智典先生は「歯頸線の位置を変えないためにすべきこと、歯頸線の位置を変えるために出来ること」のテーマで、補綴処置を行う際の歯頸線に関して考慮すべきこと、最後は宮前守寛先生の「補綴前の硬組織および軟組織のマネージメント」で、補綴後の予後を良好にするための歯周組織への処置のテクニックを講演されました。

午後のシンポジウム2「欠損部歯槽堤の保存、再建（結合組織移植を含む）」は、木林博之先生による「審美修復におけるポンティックとそれに関連する歯槽堤の形態について」からスタート。続く「修復治療のための歯槽堤増大」（山崎章弘先生）ではオバイトポンティックの形態に合わせた軟組織の増大法を、移植（CTG）を中心に講演。松井徳雄先生は「欠損部歯槽堤の再建に対する硬組織、軟組織のマネージメント」について講演。最後の演者、正木千尋氏はインプラントのための抜歯とその後のソケットプリザベーション、インプラント埋入のタイミングなどについて「エビデンスに基づいた欠損部顎堤の保存、再建のストラテジー」との題で講演されました。



講演を終え、閉会式での伊原啓祐先生（左写真）佐藤洋平先生（右写真）

Day 2

The 1st Clinical Meeting of Prosthodontic society "Prostho '14" December 6 - 7, 2014

7日午前のシンポジウム3は「クラウンカントゥア、フィニッシュラインの設定とブラックトライアングルの処理（インプラント治療を含む）」として3題の講演が行われました。六人部慶彦氏先生は「歯周組織の安定を目指して」と題し、セラミック修復物についてはラボサイドに多くを依存する現状を指摘し、長期的予後を求めるならばチェアサイドにてプロビジョナルレストレーションによる考察が重要となることを述べられました。松永興昌氏先生による「審美性を考慮したインプラント上部構造の設計」の後に本学歯科技工研鑽科の伊原啓祐先生が「ラボサイドにおけるクラウンカントゥアへの対応—歯頸線と歯間乳頭への配慮—」と題し、歯科技工士の立場から、チェアサイドで付与した歯肉縁下部の形態の再現とコンタクトポイント最下点において、ラボサイドが必要な情報を提示するとともに、臨床の現場における具体的な対応策を講演されました。

最後に午後のシンポジウム4「CAD/CAMを用いた審美材料と技工技術の進歩」とのテーマで講演が行われ、第一回補綴歯科臨床研鑽会は閉幕しました。

審美補綴治療のトップランナーの先生方がそれぞれの臨床例を数多く紹介され、講演後のディスカッションが全てのシンポジウムで時間を超過するという盛況ぶりで補綴臨床にどっぷり浸かった非常に濃密な2日間となりました。

